

創立 130 周年記念誌

わたしたちの学校

青梅市立第五小学校

目 次

あいさつ	3
第一章 のびゆく学校	
1 昔の子どもたちの暮らし	4
2 かわりゆく学校	6
第二章 五小あれこれ	11

創立 130 周年によせて

校長 平野 行子

青梅市立第五小学校、130 周年おめでとう。平成 15 年度、本校は開校以来 130 年目を迎えました。私も生まれていません。在校する子どもたちも生まれていない遠い昔、本校の礎として明治 6 年、畑中の勉習学舎をはじめ、和田学舎、好文学舎、柚木学舎がそれぞれの村に出来、その後、畑中学校、日影和田学校、江南学校、柚木学校となり、現在の歴史の 1 ページを歩みだしました。歴史を刻む中、明治 22 年 4 つの村が合併し吉野村となり、吉野尋常小学校、吉野国民学校、吉野小学校と改名しながら子供たちの教育に努めてきました。昭和 30 年、吉野村が青梅市に合併し、その時から青梅市立第五小学校となり今日に至っております。多くの人々の思いと努力、ここで学んだ多くの子どもたち、そして今在校する児童(675 名)・教職員(30 名)。青梅市立第五小学校に寄せる思いは同じだろうと思います。130 年という 1 つの節目に際し歴史の 1 ページを刻むべく、この記念誌を刊行することにしました。また、この冊子が地域・郷土の学習に使えるように、子どもたちに分かるようにと工夫しました。

悠久の歴史の中ではほんの 1 点かも知れない今年ですが、次への期待と希望の出発点と考えます。130 周年という歴史の重みと日々の積み重ねの偉大さをかみしめながら、130 周年を祝いたいと思います。

青梅市立第五小学校、創立 130 周年万歳、そしておめでとう。

創立 130 周年に寄せて

PTA 会長 天野 俊寿

溯ること 130 年、五小は明治 6 年の創立です。明治 4 年の廃藩置県当時、この地域は 40 か村で構成され、葦山 / 品川 / 入間 / 前橋の四県に属しました。明治 5 年には神奈川県に属し、現在の東京都青梅市となったのは昭和 26 年です。創立当時の学舎は 4 箇所あり、現在の場所で学区児童全員が一緒に学ぶことになったのは昭和 46 年からだそうです。その間多くの歴史的出来事があり、私たちがついこの間学校で習った事柄がたくさん出てきます。五小は時代の変革を 130 年間見ながら、たくさんの卒業生を送り出してきました。

今年度 P T A 会長として、児童と接する機会が今までより少し多くなり、私自身の小学生時代を少し思い出すことができました。すると・・・同じなんですね、私の小学校時代と。情報過多の現代にあって、会話における子供たちの語彙には格段の差があります。しかし本質的なところに大きな違いは感じません。皆より早く問題が解けた時は素直に自慢します。けんかもします。泣くこともあります。授業中悪ふざけて先生にしかられます。グループ作業では困っている友達をみんなで助けます。だれもがそれぞれ得意なものを持っていて皆に披露し、さらに伸ばそうとします。みんな素直で、そして私たちが忘れかけている未体験に対する好奇心と、無限のパワーを持って物事に挑戦します。

校舎も、場所も、机も椅子も教科書も変わりました。でも、今も昔も変わらない子供たちの笑い声、素直な心と好奇心、そして緑豊かな青梅の自然の中で、五小は時代の変革を見ながら、これからも卒業生を送り出していきます。

130 年という節目は歴史の移り変わりに思いを馳せるなかで、変えずに大切にすべきもの、そして私たち一人ひとりが今何をすべきかを考えてみる良い機会でもあると思います。創立 130 周年おめでとうございます。



昔この五小しやうの行
事ぎや子どもた
ちの遊あそびを調
べましよう。

だい しょう がっこう 第 1 章 のびゆく学校

むかし こ 1 . 昔の子どもたちのくらし

ゆた し ぜん
～ 豊かな自然とともに～

うさぎ追おい

昭和40(1965)年代ねんだいの終おわりごろまで、学校がっこうで「うさぎ追おい」という行ぎやうじ事じがありました。うさぎは山やまをかけ上がりますが、かけ下おりることはできません。その性せいしつ質りようを利用して、秋あきになると和わ田だや梅郷ばいごうの山やまでうさぎを下したから追おっていくのです。全校ぜんこうで下したから追おっていったそうです。

つかまえられるうさぎはわずかですが、全校ぜんこう挙あげての行ぎやうじ事じはみんなの楽たのしみだったそうです。まさに、名曲めいきよく『ふるさと』の「うさぎ追おいし彼かの山やま～」の舞ぶたい台たいそのものですね。

かわあそ 川遊あそび

その当とう時じの子こどもあその遊あそびを聞きくと、決きまっでて出でてくるのが「川遊かわあそび」。小お河ごう内ちダまムがまえまえは、水すい温おんも低ひくくなく、川かわで遊あそぶ子こどもあその姿すがたは今いまよりもたきんじよくさんみこられたそうです。近きん所じよの子こどもたちあその中で、高なか学こう年がくのねん子こどもがこ大たい将しやうとなり、柚ゆ木ぎのほうからなが流りれにの乗のって泳およいできたそうです。うきわのかわりに使つかっていたのはタイヤたいやのちゅーぷ。特とくに、バばスのたいやのちゅーぷはあいっぴんこがれのいっ品びんだったそうです。

「はやつり」

(昭和35年「うめのさと」より)

ぼくとまさよしちゃんとあきぼうといっしょに、多摩川へはやつりに行きました。

まさよしちゃんが「ちっちゃくてもいいべ」といいました。あきぼうが「いいよ。」といいました。ぼくは「大きいのがつれたらいんべな。」といいました。

まさよしちゃんが「よし、大きいのをとるぞ。」といいながら、さおを川の上に出しました。すこしたつと、まさよしちゃんが大きな声で「ああ、でかいのがつれた。」といいながら、さおをあげました。

ゆぎ しょう 柚木のスケート場

しょうわ ゆぎ ぶんこう とうじ
昭和のはじめの柚木分校は「冬至のころは
ごぜん じはん ひさま わか
午前11時半にはもうお日様とお別れだから、
みず こお か かた
すずりの水が凍って書き方ができない。」と
いわれたほどひえこ
冷え込みのきびしいところでした。そのころせいひょうじょう
製氷場が柚木三丁目にあり、
それがのち
後にスケート場となって五小の子ども
たちに親したしまれました。



スケート場跡(2003年撮影)

「はじめてのスケート」

(昭和54年「うめのさと」より)

ぼくは、みんなといっしょにはじめてスケートにいった。(略)はじのほうで練習をしてみた。やってみたら、思ったよりうまくはすべれたが、スッテン、コロリンで、びしょびしょになってしまった。「六小のやつらが来たぞ」とだれかがいったので、見たら、だんだんやってきた。それから、みんなでからかおうと言ったので、やっていたら、ぼくはころんでしまった。「あっはっは」と、六小のやつらがわらったので、「わらうなよ」と言ってやった。それから行こうとしたら、六小のやつらがドテンところんだので、わらってやった。「世話あ、ないわ」と言ってやった。(略)

この日は一日おもしろかった。冷たいけど、もう一度来たい。やりたい。

2. かわりゆく学校

しゅうねん むか
100周年を迎
えてからの学校の
うつか しら
移り変わりを調
べましょう。



新校舎と体育館

がっこう たてもの うつ が
学校の建物の移り変わり
げんざい こうしゃ こうてい ばしょ
現在の五小の校舎と校庭の場所には、
むかし
昔、五小と第四中学校がありました。
中学校ととなりどうしだったころは雪
が降りると四中对五小で雪合戦をすること
もあったそうです。

しょうわ
昭和48(1973)年、四中が五中と合併
して西中となり、現在の場所に移りま
した。その折り、四中で使っていた体
いくかん
育館とプールが五小で使えることにな
りました。

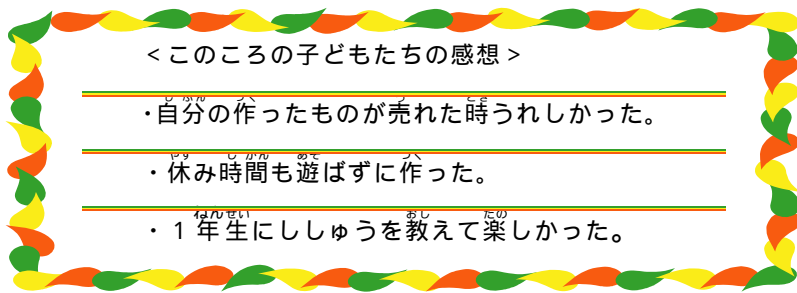
それまで五小には体育館がなく、学芸会などの行事は吉野公民館
(現在の学級園の場所にあった。学級園の階段はその名残り)を
かりて行われていました。四中の校舎があったのは現在の校庭の
ばしょ
場所で、体育館は北東のでっぱり部分にあったそうです。

しょうわ
昭和50(1975)年にはみなみがわ かいだ しんこうしゃ
南側に2階建ての新校舎ができ、平成2
いまま たいいくかん
(1990)年に今の体育館ができました。

五小まつり



しょうわ
昭和54(1979)年に始まった「五小まつり」
へいせい
も平成7年頃までは、パレードもやってい
ました。お面やおみこし、マスコットをつ
くり仮装するのも楽しみでした。ステージ
をつくり、ダンスや歌を発表しているクラ
スもありました。



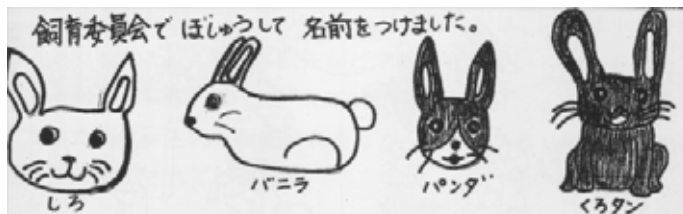
平成10(1998)年会場が屋内にかわり、雨天の場合でも安心してできるようにになりました。

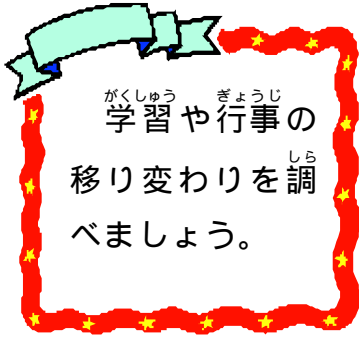
ミニ動物園

昭和61(1986)年に立派な金網つき的小屋を二棟作り、五小ミニ動物園と名付けました。リス・ウコッケイ・ウサギ・キジ・モルモット・にわとり・アヒルなども飼われていたようです。

平成3(1991)年には、山羊を飼うためログハウス風の山羊小屋が造られました。山羊の成長でその小屋も狭くなり、平成5(1993)年に市営住宅の車庫を市からもらって、五小のミニ動物園に運び込み、清水基金で買った材木を使って山羊小屋にしました。山羊の「ベえ」は五小の子どもたちと散歩もするほど仲良しでしたが、学校での飼育ができないほど大きくなり、埼玉県へ引っ越しました。その後、山羊小屋は手を入れてチャボを飼育するようになりました。

現在は、ウサギ4羽を飼育し、飼育委員会と各学年がいっしょに世話をしています。





がくしゅう ぎょうじ
学習や行事の
移り変わりを調
べましょう。

せいかつか
生活科

へいせい
平成3(1991)年、小学校1年生と2年
生の「社会」と「理科」がなくなり、新し
く「生活科」が生まれました。

じぶん
「自分のことはすすんで自分でする」ことができるよ
うになるために、生活科の学習では自然や動物・植物、
学校で生活する人々や地域の人たちと関わりあって、
たくさんの生活経験をすることが出来ます。

うめ うめ こうえん
梅もぎと梅の公園

五小では、毎年6月になると梅の公園で梅
もぎをしています。



はじめは、校内にある梅の実をとっていまし
たが、平成2(1990)年ごろに、そのころの校長
先生が「九兵衛」さんのとなりの畑をかりて
くださり、そこで梅もぎをするようになりました



た。梅の公園では、市民の方に呼びかけて梅もぎ
をしていましたが、平成10(1998)年ごろから、子どもたちの学習の
ために使わせてくれるようになりました。

もいだ梅は、学校で梅ぼしや梅ジャム、梅ジュースなどにしてい
ます。みなさんは何が好きですか。

また梅の公園では、梅だけではなく平成15(2003)年にツツジ・ア
ジサイ・ロウバイなどの低い木を2000本ほど植えて、一年を通し
て楽しめる工夫も始められました。

吉野の梅

今 五小のあるあたりは、江戸時代から梅の産地として知られていました。明治時代の初代吉野村長の川上郡三氏は、この地をいろいろな人知ってもらおうと力を尽くしました。初めは桜、のちに梅を植え、吉野を「花の名所」にしようとしたのです。

今の地名は梅郷です。五小のまわりの梅農家は、以前は150軒ほどありましたが、現在は庭先などで栽培されているものを含めても40軒ほどになりました。(2001・平成13年)

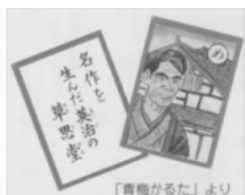
とれた梅は、生梅で販売されるほか、梅干し、ねり梅、梅の粕漬けなどに加工されています。

総合的な学習の時間

平成14(2002)年4月から、学校も大きく変わりました。土曜日が毎週休みになり、勉強でも新しく「総合的な学習の時間」が3年生以上で始まりました。

3・4年生では、梅郷地区を探検したり多摩川を調べたりと地域の特色を生かした活動を中心に行っています。また、5・6年生では、お米作りやボランティア活動、JICA(ジャイカ)国際交流など、自分でめあてを決めて学習をしています。

吉川英治氏をたずねて



「青梅かるた」にもあるように、吉川英治氏は、吉野にかかわりの深い文豪です。五小では、その吉川氏の足跡を「総合の時間」に取り上げて学習を進めたこともあります。

吉川氏は、戦争による疎開がきっかけで、柚木町に十年間住んでいました。その間に、学校の図書室にたくさんの本を寄贈したり、公民館の設立に力を尽くしたりと吉野村(梅郷地区)の発展に大きく貢献しました。

がくげいかい がくしゅうはっぴょうかい
学芸会から学習発表会へ

これまで五小では2年に1度「学芸会」が行われてきました。
学芸会とはみんなで練習した劇などを発表する行事でした。

ところが、「総合の時間」が始まり、いろいろな学習のつみ重ね
を発表できるようにと、「学習発表会」と名前を変えて行うこと
になりました。そして平成14年に初めて「学習発表会」が行
われ、国語で習ったお話や、総合の時間で勉強したことを劇や
音読、音楽などで発表しました。

りんかいがっこう いどうきょうしつ
臨海学校から移動教室へ

昭和26(1951)年7月29日、神奈川県葉山で第1回の臨海学校を
始めました。昭和40年に市営青海荘が千葉県富山町岩井海岸に
開設され平成13年まで6年生が二泊三日の臨海学校として利用
しました。

しかし、その青海荘も古くなって閉じられ、臨海学校は移動
教室に変わりました。

五小では平成14年には日光移動教室、15年には富士移動教室
が行われました。また、昭和29年から五小で行われていた5年生
の宿泊訓練は、平成9年から13年まで清里移動教室として行わ
れました。

第2章 五小あれこれ

「五小あれこれ」

君はいくつ知っている
かな？



こうしょう
校章

校章は明治43(1910)
年頃に制定されました。
吉野の村という名前

にちなみ、桜の花が型どられています
が、梅郷の梅にも取れるようなデザイン
になっています。

しよくいんしつまえ
職員室前の
大きな石は・？

しゅうねんきねん
百周年記念の時に
よういされた岩石です。
職員室の前庭に
彩りをそえています。



こうがく
校歌碑

平成3(1991)年に建てられ
ました。みかげ石というりっ
ぱな石でできています。

青梅市立第五小学校 校歌

一 山むらさきに 水清く
ちりをへだつる 吉野こそ
新月ヶ瀬と うたわれて
梅に名をえし 里なれや

二 文好むちやう 梅そのの
かなたに立てる 学びやは
われが良き師 良き友の
親しみ学ぶ 楽園ぞ

三 前を流るる 多摩川や
後ろに仰ぐ 愛宕山
水にはたえぬ 努力見え
山にはつきぬ 生氣あり

四 いざ山水に ならいつつ
清く気高き 心もて
春にさきたつ 梅のと
学びの道に さきがけん

[昭和5年制定]

一 山つつくしく 水すんで
きれいな空気の 吉野村
第二の月ヶ瀬と うたわれて
梅の名所の 里ですよ

二 勉強すきの 梅の園
むこうに見える 学校は
われらの先生 友たちが
ながよく遊べる ゆめのくに

三 近くに流れる 多摩川と
後ろにそびえる 愛宕山
流れは止まらず元氣よく
山はいきいきたのもし

四 さあ山水にみならつて
つつくしくやさしい心もち
春のはじめの梅のように
学んでいくことがばらう

[平成9(1997)年の3年生が今の言葉に直してみました。]

たてわり活動

1年生から6年生までが仲良くなれるようにという願いから「たてわり活動」をしています。6年生のリーダーを中心にいっしょに掃除をしたり、みんなで楽しく遊んでいます。1年の終わりにはお世話になった6年生の似顔絵を描いて6年生にプレゼントしています。
(似顔絵集會)

五小ギネス

児童会が計画して行っています。その年ごとにやりたい種目を決めます。種目が決まったら参加したいグループを募集します。参加グループは休み時間を利用して練習を積み、1秒でも1回でも記録が伸びるようにがんばっています。

1・2年…メディシンボール

3・4年…馬とび

5・6年…背渡り

(2003年前期の種目)

しみずききん 清水基金

～ 柚木町出身の清水力三さんの吉野郷への思い～

柚木町出身の清水力三さんは、「吉野の子どもたちのために」というお気持ちから平成2(1990)年に多額のお金を五小PTAに寄付してくださいました。そこでこのお金を「清水基金」として、印刷機、本(清水文庫)、もちつきの用具、一輪車、倉庫、校歌碑などに使いました。なかでも平成4年9月に作られた「わんぱくとりで」は、毎年手入れされ、子どもたちの大好きな遊び場として大切にされてきましたが、平成14年7月に古くなりとりこわされました。清水力三さんのお気持ちは、記念碑として平成15(2003)年8月に校門横に残されました。



球技大会

昭和24(1949)年に小中合同でPTAが始まり、村長さんから贈られた優勝カップ争奪競技大会として野球大会が開かれました。これが現在の球技大会のもとです。そして昭和26年に小学校のPTAとして大会が開かれました。今年で55回目の球技大会は、男子は野球、女子はドッジボールで、五小のグラウンドと五小の体育館・梅郷市民センターの体育館で行われました。

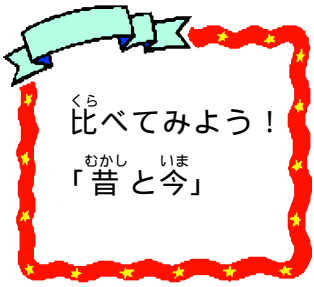


少年の像

昭和47(1972)年11月に青梅に住む彫刻家、松野伍秀さんが作りました。松野さんのお子さんが五小に通っていたこともあり「子どもたちが健やかに育つように」という願いをこめて、五小に贈っていただきました。

毎年やってくるお客さん

五小には、毎年やってくるお客さんがいます。そのお客さんは、3月の終わりごろやってきて産卵し、夏休み前には飛び立っていきます。もうわかりましたね。そうです。そのお客さんとはイワツバメです。この時期になると校舎のあちらこちらでかわいらしいヒナの様子やヒナのためにえさを与える親ツバメの様子が見られます。



おくじょう
屋上からのながめ



東側



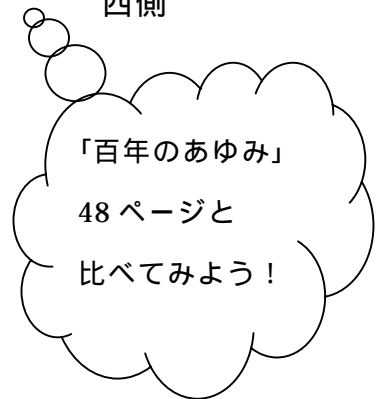
南側



西側



北側



現在 130周年(2003年)

現在のバス

しもごう ていちか
下郷バス停近く



ばいごう ちょうめ ぶきん
梅郷4丁目付近



こうもんまえ
校門前

ばいごうしみん
右に梅郷市民セン
ター、おく しんこうしゃ
が見えます。



たいいくかん
体育館から
プールまでの道



むかし しょうわ ねんだい
昔（昭和30年代）のころ



ボンネットバス

- ・バスがすれ違^{ちが}うところ。
- ・畑^{はたけ}中^{なか}付近^{ふきん}。
- ・砂利^{じゃり}の道^{みち}。



「寺内」

- ・オート三輪^{さんりん}で農道^{のうどう}から
吉野街道^{よしのかいどう}へ出るところです。
- ・バス停^{てい}が見えます。



校門前

- ・石積^{いしづみ}みの校門。
- ・木造^{もくぞう}校舎^{こうしゃ}です。
- ・松^{まつ}の木の大きさを比べ^{くら}て
みよう。



体育館ができる前のケヤキの木

雨宿^{あまど}りをしたり、木^きの実^みを集^{あつ}めたりと子どもたちに親^{した}しまれていたケヤキの木^きがありました。平成2(1990)年体育館^{たいいくかん}建設^{けんせつ}のために切^きられ、その木^きはうすとして生^うまれ変^かわりました。

創立 130 周年記念誌 わたしたちの学校

- ・発行 青梅市立第五小学校
〒198-0063 青梅市梅郷 3-765-1 0428(76)0414
 - ・発行日 平成 15 (2003)年 11 月 13 日
 - ・写真提供 フォトスタッフ
-